

第135回リニアドライブ技術委員会議事録（案）

日時：平成25年7月5日(金) 13:50～16:30

場所：JR東海品川ビルA棟会議室

出席者：委員長 北野（JR東海）

副委員長 水野（信州大）

委員 上田（東芝）、海老原（IEEJプロ）、白石（安川電機）、長谷川（鉄道総研）、

森下（工学院大）、渡邊（IEEJプロ）

幹事 村井（JR東海）

幹事補佐 矢島（SMC）（記）

（10名）

欠席連絡（委任） 鳥居（東京都市大）、樋口（長崎大）、平田（大阪大）、

前田（シンフォニアテクノロジー）、増澤（茨城大）、矢野（近畿大）、

吉桑（三菱電機）、脇若（信州大）、和多田（東京都市大）

（9名）

提出資料

135-1 第134回リニアドライブ技術委員会議事録（案）（矢島幹事補佐）

135-2 リニアドライブ技術委員会名簿（矢島幹事補佐）

135-3 平成25年第1回D部門研究調査運営委員会議事録（案）

平成25年度リニアドライブ技術委員会活動報告（北野委員長）

135-4 技術委員会の2013年度重点取り組み（北野委員長）

135-5 委員会構成員変更届け（北野委員長）

135-6 リニアドライブ技術関連カレンダー（矢島幹事補佐）

135-7 サニー貸会議室（矢島幹事補佐）

135-8 2013年6月リニアドライブ研究会開催報告（矢島幹事補佐）

135-9 リニアドライブ/交通・電気鉄道合同研究会（北野委員長）

135-10 リニアドライブ/交通・電気鉄道合同研究会の締切日のお知らせ（上田委員）

135-11 委員会構成員変更届（矢島幹事補佐）

135-12 H26年全国大会（愛媛大）シンポジウム提案の依頼（北野委員長）

135-13 LDIA2017（北野委員長）

135-14 電磁アクチュエータのための磁性材料とその評価技術調査専門委員会設置趣意書（案）（北野委員長）

135-15 マグネティックス/リニアドライブ合同研究会（矢島幹事補佐）

135-16 多自由度新世代アクチュエータの性能評価調査専門委員会（MDD）活動報告（上田委員）

135-17 産業用リニアドライブ技術の応用展開調査専門委員会（MEL）活動報告（矢島幹事補佐）

135-18 第8回多自由度新世代アクチュエータの性能評価調査専門委員会議事録（上田委員）

135-19 第8回産業用リニアドライブ技術の応用展開調査専門委員会議事録（案）（矢島幹事補佐）

135-20 第10回環境調和型磁気支持応用技術の体系化調査専門委員会議事録（案）（長谷川委員）

議事

1. 議事録確認

資料135-1を基に、矢島幹事補佐から第134回委員会の議事録が確認された。一部修正のうえ承認された。

2. 報告事項

2.1 資料135-2を基に、矢島幹事補佐から、LD技委の名簿の確認があった。中村委員が退任し（資料135-5）長ではなく、古関先生がTER技委とのliaisonを兼務する。

2.2 資料135-3を基に、北野委員長から6月7日に開催されたH25年度第1回D部門研究調査運営委員会について説明がされた。大石委員長から大山委員長に交代。年度初めのため、各技術委員会の活動報告が主だった。研究会での採点用紙の統一について審議され、統一しないこととなった。

2.3 資料135-6を基に、矢島幹事補佐からリニアドライブ関連の研究会や国際会議などについて確認された。

2.4 資料135-7を基に、矢島幹事補佐から、電気学会で紹介されている会議室が日本交通協会会議室（有楽町）からサニー貸会議室（神田）に変更されたと説明があった。無料LAN環境がある。

- 2.5 資料 135-8, 135-15 を基に, 矢島幹事補佐から 6 月に開催された MAG・LD 合同研究会の開催報告があった。発表件数 20 件, 参加者のべ 142 名。
- 2.6 資料 135-9 を基に, 北野委員長から 8 月に開催される LD/TER 合同研究会の案内があった。LD 技委からの発表は 10 件中 2 件。

3. 審議事項

- 3.1 資料 135-4 を基に, 北野委員長から, H25 年度第 1 回 D 部門研究調査運営委員会で起案された 2013 年度技術委員会の重点取り組みについて説明があった。特に, 「①研究会への企業からの発表を増やしたい」について集中的に討議され, 「招待講演にして感謝状を贈る」「学術貢献賞・発表賞を出してはどうか」「交通費をお渡しする」「発表者のキャラクターによっているところがあり, スピーカーを発掘しなければならない」などの意見が出た。また, 「④技術報告の内容を PR し多くの会員に購入してもらう」については, 「現状は電気学会の HP からしか購入できず困難であるため, amazon などを買えるようにしたほうがよい」などの意見があった。今回の審議内容をまとめ, 北野委員長から D 部門研究調査運営委員会に報告する。
- 3.2 資料 135-10 を基に, 上田委員から LD 研究会について, 年間を通して研究会毎の意味合いを持たせると良いと提案があった。MLV 委は 12 月に研究会を開催することが定例化されていることが紹介され, 「パターンを変えずに開催月を決めて定例化するとよい」などの意見があった。
- 3.3 資料 135-12 を基に, 北野委員長から 2014 年 3 月の全国大会(愛媛大)のシンポジウム提案について説明があり, MEL 委が発表することが確認された。資料 135-17 を基に矢島幹事補佐から, シンポジウムではメーカーからの技術および製品紹介を行ないたいことが説明され, 承認された。本報告会成功のため, LD 技委関係のメーカーはできるだけ協力するように委員長からも強い要望があった。また, 10 月 2 日までに大山運営委員長宛にシンポジウム提案用紙を提出する。
- 3.4 資料 135-13 を基に, 北野委員長から「電磁アクチュエータのための磁性材料とその評価技術調査専門委員会」の設置趣意書(案)が説明された。次回の LD 技委(10 月 4 日)で最終確認し, 12 月 5 日の運営委員会に間に合わせ, 年明けから発足の予定となった。

4. 各調査専門委員会活動報告

資料 135-16～資料 135-20 を用いて, 各調査専門委員会から活動報告があった。

以上